みなさまと公益財団法人白浜医療福祉財団を結ぶ情報誌

はまYOU

Vol. 52
2023.新春号

「冬の朝、円月島」　撮影者：放射線科　横山　新一郎

看護師・介護職員 募集中

整形外科外来

診療日／月・水・木・金曜日　午前
木曜日　午後（予約制）

受付時間／午前8時半～11時半

診療時間／午前9時～12時

担　当：小池（こいけ）　達也（たつや）部長
永田（ながた）　浩之（ひろゆき）医師
本吉（もとよし）　俊貴（としき）医師
岩切健太郎（いわきりけんたろう）医師

外科／消化器外科外来

診療日／月・火・木・金・土曜日　午前
水曜日　15時～（予約制）

受付時間／午前8時半～11時半

診療時間／午前9時～12時

担　当：荒居（あらい）　琢磨（たくま）部長
加藤（かとう）　俊治（しゅんじ）医長
三好（みよし）　隆行（たかゆき）医師

白浜はまゆう病院は、夜間・休日を問わず
「365日・24時間の救急医療」に対応しています。

公益財団法人日本医療機能評価機構　認定施設複合病院（一般病棟1・リハビリテーション病院・慢性期病院）機能種別版機能評価項目3rdG：Ver.2.0

CONTENTS

理念・基本方針 …… 2
2022年を振り返って …… 3～4
新採用医師のご紹介
診察室から ～女性診療科外来のご紹介～ …5～6
はまゆう病院DMATのご紹介 …… 7
今年の冬の感染症対策について …8～9
表彰について／職員募集のご案内 …10
一週間のバランス献立 …… 11
●白浜はまゆう病院 外来診療担当表

敷地内全面禁煙
NO SMOKING

この製品は、FSC®認証材、再生資源、およびその他の管理原材料から作られています。

理念

私たちは、地域に根ざした医療機関として、誠実さと思いやりをもって、質の高いサービスを提供し、健康・福祉のレベルの高い地域づくりに努めます。

基本方針

1. 利用者の権利の尊重

私たちは、健康増進から看取りまで、利用者の皆様の気持ちや権利を大切にした医療とケアを提供します。

2. 地域に開かれた存在

私たちは、24時間いつでも、誰でも、困った時は気軽に受診・相談していただける、地域に開かれた医療機関・サービス提供機関を目指します。

3. 協力と連携

私たちは、院内各職種が手を携え、地域の他機関とも協力連携し、健康増進・診断と治療・リハビリテーション・看取りまでの一貫した包括的な地域医療と福祉を提供します。

4. 利用者とのパートナーシップ

私たちは、患者・利用者の皆様と手を携え、安全で質の高い医療・ケアを提供します。

5. 事故・災害への対応

私たちは、大規模な自然災害や事故に対応できるように、普段から備えを強め、いざと言うときに頼りになる病院を目指します。

6. 質の維持と改善

私たちは、常に研修を行い、時代の水準を維持するとともに、お互いに注意し合い、サービスの質の向上に努めます。

7. 観光地の病院としての対応

私たちは、観光客の人々が安心して訪れられるよう、不慮の事故や病気に対しての診療体制を整備します。

いつでも、だれでも みんなが、あんしん。

公益目的事業へのご寄附のお願い

当法人の公益目的事業にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますよう心よりお願い申し上げます。
皆様からの寄附金は、公益目的事業遂行のために有効に使用させていただきます。

事業目的

当法人は、白浜町及びその周辺地域の公衆衛生の向上と地域医療に関する事業を行い、もって地域住民及び観光滞在者等の健康と福祉の増進に寄与することを目的としています。

事業内容（公益目的事業）

当法人は、国立病院等の再編成計画により廃止された元国立白浜温泉病院施設を、医療施設として再利用してほしいという地域住民の願いを実現するため、白浜町はじめ民間団体等の参画により開設された法人です。
現在白浜はまゆう病院、診療所、訪問看護ステーション、骨リウマチ疾患探索研究所を運営し、予防から治療、リハビリテーション、看取りまでの医療・ケアを提供し、地域医療の向上や地域住民、観光滞在者等の健康と福祉の増進に寄与する事業を行っています。

(1) 地域医療を主体とする病院の管理運営
(2) 救急医療の実施
(3) 介護保険法による介護医療院の運営並びに居宅介護支援事業及び指定居宅サービス事業等の実施
(4) 開放型病院による登録医への共同利用施設としての医療機器及び病床の提供
(5) 温泉を活用したリハビリテーションの推進
(6) 生活習慣病予防の健康診断及び健康増進並びにがん検診事業
(7) 無医地区及びへき地等における在宅療養支援診療所の管理運営
(8) 訪問看護ステーションの管理運営
(9) 医療・保健・福祉に関する調査研究並びに普及啓発
(10) 高齢者・障害者等の医療とケアに関する調査研究
(11) その他、この法人の目的を達成するための事業

税制上の優遇措置

当法人への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除を受けることができます。（詳細は白浜はまゆう病院ホームページをご覧ください。）

寄附金の申込

白浜はまゆう病院ホームページに掲載しております寄附金申込書に必要事項をご記入の上、下記まで郵送・ファックスしてください。もしくは、下記までご連絡をお願い致します。

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地　白浜はまゆう病院内
公益財団法人白浜医療福祉財団 法人事務局
TEL 0739-43-6200 ／　FAX 0739-43-7891

2022年を振り返って

白浜はまゆう病院
院長 辻本 登志英

2022年も残す月日は少なくなりました。白浜町住民の皆さんお一人お一人に生涯を通じて健康・安寧を提供することが財団と白浜はまゆう病院の使命であり、今年も皆さんにお役に立てる病院であったかどうかを見直し来年の課題を見つける時期でもあります。振り返りますと喜ばしいこと、そして皆さんにご迷惑をおかけしたことなどいくつかの変化がございました。

まず、本年4月より新たに3人の先生が常勤医として着任いたしました。まず白浜はまゆう病院健診センターに酒井喜久医師が着任し、すでに半年以上健診業務に就いております。もとから健診を専業とする先生ですので、たくさんの利用者の方々にお役に立てていると思います。どうぞ今後も気軽に受診いただきますようお願いいたします。つぎに内科の砂子由美医師は病院の内科および健診科業務、診療所業務についております。病院では主に内科救急外来を担当しております。そして川添診療所に栩野祐一医師が内科医として赴任しました。川添診療所は竹井診療所長が地域の皆さんに深くかかわっております。栩野医師もそのもとで地域医療に邁進いたしておりますのでよろしくお願いします。川添診療所の診療日以外ははまゆう病院で外来と入院業務に当たっています。

以上3人の先生が新たに着任しておりますが、財団内では医療職、事務職員にも新たな力が加わり、そして定年等で退職する職員もあることから、少しずつ世代が代わっていることを実感しております。しかし、これはすべての財団職員に言えることですが、どの職員も当財団の使命を十分に知り、それを実践するために職務についております。まだ慣れない場面もあるかも知れませんが、改めるべきところは指導していただき、そして良いところがありましたらどうかたくさん褒めてあげて下さい。この財団・病院を皆さんの手で育てて頂きますよう

お願いいたします。

財団・病院が皆さんに提供する医療は、病院の持つ「ひと」と「もの」で決まります。「ひと」は絶え間なくそして少しずつ入れ替わりますが、理念を忘れないようにすることが大切であることは前段で触れました。そして「ひと」の力で新しい「もの」をうまく使えれば最新・最良の医療が提供できます。今年は新たな医療機器を更新することはありませんでしたが、今後も定期的に「もの」の更新は必要となります。そして、利用される皆さんの満足度を少しでも上げられるような建物の改築も必要だと感じています。どれも投資の必要な事業ですが、白浜町の病院としての機能を維持するため、病院の努力はもとより白浜町からも倍旧のご理解とご支援を頂きながら継続してゆきたいと考えています。

さいごに、最初の発生から3年になろうとする新型コロナウイルス感染症について、当院の状況を紹介しなければなりません。2020年4月に病院長就任以降、私は新型コロナウイルス対策に多くの力を注ぎ、患者さん・利用者の皆さんには不便をかける中、少しでも不安を少なく受診していただき、また入院生活を送っていただけるようよびかけ、これに職員全員が呼応し力を合わせて対策を行ってまいりました。しかし度重なる感染の大きな波にもまれ続け、感染増加による病床の制限、面会などの制限など、患者さん・利用者の皆さん、そしてご家族の方には多くの負担をかけてまいりました。と同時に職員は仕事中絶え間なく感染の予防に力を注ぎ続け、そして日頃の生活においても職員としての自覚を持って自身を律しつづけてきました。疲弊しても息抜きさえ許されない状況に置かれている今、新型コロナ感染対策に大きな変革が喫緊の課題として求められているのは私たちの財団・はまゆう病院だけではありません。

その中でも患者さん・利用者の皆さんが感じられるであろう不安を払拭するために、職員一同努力してまいりました。新型コロナ感染対策のためなおご不便ご負担をかけているところではありますが、どうぞご容赦頂き安心して訪れて下さいますようお願いいたします。

当財団・白浜はまゆう病院は地域密着型の施設として、質の高い「良い医療」を提供することが使命です。どのような苦しい状況であっても「良い医療」を提供するために職員一同仕事に「楽しみ」と「やりがい」を見つけ、1人1人がプロフェッショナルを意識して取り組みます。

2023年は社会全体の雰囲気が大きく変わることを期待し、皆様方には今後も変わらぬご指導、ご支持を頂けますようお願いいたしまして2022年の振り返りといたします。

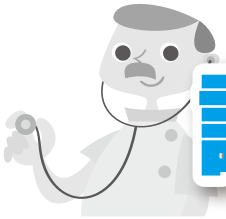
新採用医師のご紹介

もとよし　としき
本吉　俊貴　医師　整形外科

10 月より白浜はまゆう病院整形外科に赴任致しました本吉俊貴と申します。半年間と短い間ですが、地域医療に貢献できるよう精進したいと思っております。
まだまだ至らない点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します

みよし　たかゆき
三好　隆行　医師　消化器外科

この度、京都府立医科大学 消化器外科学教室より赴任致しました、三好隆行と申します。
白浜は、大学時代に所属しておりました準硬式野球部の合宿で何度か御世話になったことがあったのですが、腰を据えて生活するのは初めてとなります。白浜に住む皆様に、安全・安心な医療を御提供できるように努めて参りますので、4 ヶ月という短い期間では御座いますが、どうぞ宜しく御願い申し上げます。



診察室からのお話

～女性診療科外来のご紹介～

副院長･女性診療科部長
國部　久也

白浜はまゆう病院女性診療科の國部久也と申します。

2006年1月1日に赴任してから17年間地域の患者様／皆様に外来診療を通じて関わらせていただき、大変ありがとうございます。

長きにわたり病院にもお世話になりましたが、来年2月に定年を迎えることになりました。ありがとうございました。この場をかりてお礼を申し上げます。

さて、女性診療科では外来で実施することができる小手術は行っていますが、手術室での婦人科手術は行っていません。このため外来でできる診療を中心に外来運営を行っています。この病院に赴任してから外来診療も大きく変わりました。

まず子宮頚がん予防ワクチンですが、国主導の下、ワクチン接種を積極推奨しましたが、ワクチン接種による有害事象が発生し、国も積極的接種から大きく後退し接種が公費負担ではできなくなりました。その間も十分説明を行い、細々と接種は行ってきました。おかげで子宮頚がんの発症が積極推進国に比べて減少することがなく、女性の皆様に大きな不利益を受ける状態でした。

昨年から産婦人科／小児科／感染症学会などからの説得が続き、今年ようやく以前のように公費負担による接種が可能となり、当外来でも接種者も大変増加してきています。来年からは公費で使用できる２価／4価型のワクチンに加えて9価型ワクチンも公費での使用が4月以降可能になるようです。

少産少子化が叫ばれる中、毎年1万人の子宮頚がん新規患者が発生し、3000人の患者様が死亡していることにようやく歯止めがかかるのでは大変期待しています。

女性診療科では、予防医学の観点から、女性健診（子宮がん検診・乳がん検診）を健診センターとともに幅広く実施しております。

それ以外にも更年期障害などの治療や女性の皆様方に日頃困っている症状や疾患を幅広く診療させていただいています。

副院長として、地域ケア室長としての仕事もあり、毎日忙しく働かせていただいています。

はまゆう病院DMATのご紹介

医事課 副主任・日本DMAT 業務調整員
坂本　麻美子

DMATってなに?

1995年の阪神淡路大震災では、災害時の初期医療が遅れ、災害医療を担う病院もなく、現場で活動する医療チームもありませんでした。結果、通常の救急医療体制であれば救命できた死者が500名も発生したと言われています。

これを教訓として厚生労働省を中心に検討を重ね、2005年4月に日本DMATが発足しました。

医師・看護師・業務調整員で構成され、大規模災害や多数の傷病者が発生した事故などの現場において、おおむね48時間以内に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームです。

Disaster Medical Assistance Teamの頭文字から『DMAT』と呼ばれます。

紀南地方では当院のほかに紀南病院と南和歌山医療センター、県全体では和医大等11病院がDMAT指定医療機関の県知事指定を受けています。

どんなことをするの?

大規模災害や多数の傷病者が発生した事故現場に行き、

- 本部活動
- 広域医療搬送（被災地外に患者を航空搬送する）
- 病院支援（トリアージ・診療支援）
- 地域医療搬送（被災地内外に患者を搬送する）
- 現場活動（緊急治療・トリアージ）

などを行います。

当院DMATも、2016年4月14日発災の熊本地震では熊本赤十字病院内の活動拠点本部で本部活動を行いました。

現在は医師2名、看護師4名、業務調整員2名の合計8名の隊員が在籍しています。

政府主催大規模地震時医療活動訓練に参加しました

毎年9月頃に政府主催大規模地震時医療活動訓練が開催されています。

今年は10月1日（土）に南海トラフ地震が発生し、静岡県・愛知県・三重県・和歌山県に甚大な被害が出たという想定で行われました。

はまゆう病院DMATは二手に分かれ、院内で他府県（今年は北海道）から病院支援に来たDMATを受け入れ病院としての機能を維持する訓練と、南紀白浜空港で臨時医療施設を開設・運営する訓練の2種類の訓練に従事しました。

大規模地震時には県内ほとんどの医療機関がパンク状態になってしまいます。少しでも多くの患者さんに適切な医療が届けられるよう備えを強めて行きたいと思います。

今年の冬の感染症対策

泌尿器科部長
感染対策委員長
木村　泰典

新型コロナウイルス感染症という疾患が判明して３年になろうかという月日が経過しています。ウイルス感染症にゼロリスクを求めるのはそもそも無理な話で、本気で感染を避けるなら、社会との交わりを一切絶ち、玄関のドアを絶対に開けず「籠城」するしかありません。しかし皆さん、よく考えてみてください。コロナの感染リスクと引き換えに、人間の喜びや楽しみを捨て、生き延びることが本当に望みでしょうか？ウイルスに怯え、除菌された空間に閉じこもり、ただ生きるだけの人生に価値はあるのでしょうか？締め付け一辺倒の、事なかれ主義に取りつかれた政策に伴う莫大な経済的損失、人々の深刻な疲弊、社会の分断は、いったいどうするつもりなのでしょうか？

残念ながらコロナウイルスを社会から根絶することは不可能で、変異により病原性は変化しつつも、いつまでも何年もグズグズと流行ったり、収まったりを繰り返すでしょう。リスクをゼロにすることはできない、しかし最小限に抑える工夫はできると考え、行動しながら生活を守っていくしかないのです。その工夫において重要なのが、①感染リスクを減らすための正しいリテラシーを身につけること、②もし感染しても万全の治療を受けられる医療行政を整えておくことですが、ここでは現場の医師として①に関して最新の知見をおさらいしておきたいと思います。

当初考えられていたより接触感染は起こりにくいことがわかってきました。顔に手を持っていくときは手をきれいにしてからにするを心がければ十分です。メインの感染ルートは飛沫はもちろんですが、「微小飛沫（エアロゾル）を吸い込むこと」だとわかってきました。咳やくしゃみはもちろん、しゃべった時の声帯のふるえから微小飛沫は発生します。だまっていて普通に呼吸している程度ならば、感染が成立するようなウイルス量が排出されることはありません。ウイルスは人間の防御機構に対し、数に任せて集団突破の戦略をとっていますから、感染対

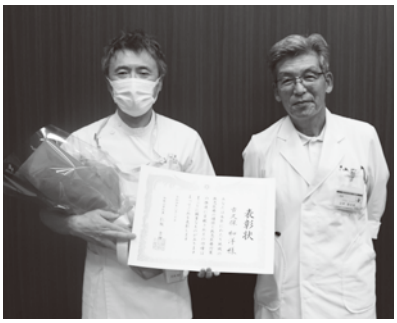
策のポイントは目には見えませんが空中にぷかぷか浮いているウイルスの濃度を下げることです。換気の徹底は正しいです。マスクはＮ９５マスクは除いて、微小飛沫はある程度通り抜けます。排出されるウイルス量を減らしたり、吸入するウイルス量を減らしたりするため、一定の効果がありますが、絶対的な免罪符にはなりません。アクリル板のついたては・・・気流の循環を妨げるような置き方をするなら逆に声が大きくなってエアロゾルが増えることもあるので逆効果かもしれません。知識のアップデートとしてぜひ今回知っておいてほしいことは、「声帯のふるえで発生する微小飛沫がその場に滞留する環境に身を置くと危ない」ということです。そうならないように工夫すれば、自粛一辺倒など極端に偏ることなく、様々な活動が自由にできると思います。

もう一点、もし不幸にも発症したらどう対処すべきかについても触れておきましょう。オミクロン株以降では重症化率は当初に比べかなり低下していますから過度な心配はしないようにしましょう。ちなみに、新しい変異株の報道がなされる度に感染力が何倍とかいう話がよくありますが、感染は病原性が高い病気は患者さんが寝込んでしまうので拡大しにくく、病原性が低くなって軽症で動き回る人が多くなれば拡大しやすくなるものですから、病原性や人々の免疫の獲得状況で変化します。本来感染力という言葉は実験室でウイルス何個中、何個が細胞に感染するかを言うのであって、実社会で見ているのは感染力ではなくて、感染拡大力です。間違って報道されているので恐怖を煽られないように注意してください。

話を元に戻しますが、重症化しないためにはかぜの引き始めが肝心で、ここで無理をするとこじれます。まずは横になって布団に潜り込んで体を温めてください。体を温めることで免疫細胞の働きが活発になり、サイトカインといった生体内の酵素の反応が円滑に進みます。そして寝ることによって病気との戦いに体力を集中させることができます。ビタミンなどのサプリメントをとるのもよいです。食事の量は消化にエネルギーを取られすぎてもいけないのでいっぱいは食べずにほどほどでよいです。最初の３日間この「横になって体を温めてじっとしている」をしっかり行うことができれば多くの方は基本大丈夫です。参考にしてみてください。

今年の冬も皆様が心身ともに健やかに過ごせるよう祈念して、筆を置きたいと思います。

令和4年度救急医療功労者　知事表彰



はまゆう病院小児科医長、古久保和洋と申します。

この度県の救急医療功労者として表彰いただけるとのことで、私のようなものが、と誠に心苦しい限りですが、謹んでお受けいたします。

私は、2006年4月にはまゆう病院小児科医長を拝命し、以降現在に至るまで地域の小児科医療の一助となればと病院外来および病院の夜間救急に従事する一方、田辺市の休日診療所にも出向いたしております。子供たちに元気になってもらいたいと思う一方で、私自身がその無邪気な笑顔にどれだけ助けられているか、年を経るごとに実感しています。

したがって、医療を提供しているというよりは、自身の癒しのために続けている、続けられているといっても過言ではありません。功労者としてご推薦頂けるとのお話を伺った時も、特に何の業績もなく、ただ長い間勤務しているだけの私が、と非常に恥ずかしい限りでした。

今後とも地域の子供たち、これから生まれてくるたくさんの子供たちの笑顔を見るために頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

第19回病院大会 永年勤続表彰

坂本和之医事課長と笹本晃子看護補助者の2名が、和歌山県病院協会より、同一病院において、20年以上勤務し、職務に精励した方に送られる永年勤続者会長表彰を受けました。

職員募集

採用時期／随時
試験日は追って連絡します

■看　護　師‥若干名
■介護職員‥若干名

◇看護師寮完備 ◇経験者優遇します
◇見学随時受付中

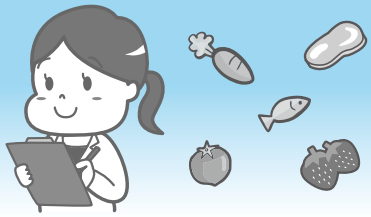
募集内容はこちらから

※詳細は、ハローワーク田辺もしくは下記までお問い合わせください。

応募方法/履歴書、職務経歴書（職歴をお持ちの方）を送付して下さい。

お問い合わせ先
公益財団法人
白浜医療福祉財団
白浜はまゆう病院 総務課
TEL.0739-43-6200
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447
URL:http://www.hamayu-hp.or.jp/

一週間のバランス献立



食養科
古井 啓詞

管理栄養士が伝えたい日々の食事のポイントについてご紹介いたします。
食事の基本は主食・主菜・副菜をバランス良く組み合わせることです。
1週間を目安に色んな食材で、調理法・味つけ等を工夫しながら食事を楽しんでみてください。
組み合わせることで様々な種類の栄養素を摂ることができます。

栄養素の豆知識
ビタミンB1について

・疲労回復や糖質の代謝に不可欠なビタミン。脳の働きをサポートする効果があります。
・皮膚や粘膜の健康維持を助ける働きがあります。
多く含む食品:豚肉、赤身肉、玄米、大豆、ほうれん草、カリフラワーなど

	朝	昼	夕
日	米飯・味付海苔・里芋の煮物 味噌汁・牛乳	米飯・肉団子の甘酢あんかけ・卵とじ ブロッコリーハムサラダ	米飯・タラの焼き浸し 揚げ出し豆腐・ほうれん草のごま和え
月	ロールパン・メープルジャム コンソメスープ・牛乳・果物	米飯 クリームシチュー 大根煮物・春雨酢の物	米飯・鰺フライ カリフラワーのカレーソテー 海草サラダ・果物
火	米飯・ふりかけ・白菜のしらす和え 味噌汁・牛乳	米飯・サワラの柚子風味焼き・果物 じゃがいも甘辛炒め・コーンサラダ	米飯・冷奴 鶏肉のピカタ・果物 具沢山の味噌汁
水	ロールパン ジャム ポテトサラダ・牛乳・果物	米飯・さんま昆布煮 かぶのかにあんかけ スパゲティサラダ	米飯・麻婆茄子 さつまいもレモン煮 白菜と春菊の海苔和え・果物
木	米飯・味付海苔 ほうれん草の煮浸し・味噌汁・牛乳	米飯・かき揚げ 茄子味噌炒め 和風サラダ	米飯・サバの生姜煮 長芋の煮物 もずく三杯酢
金	ロールパン・ジャム 野菜スープ煮 牛乳・果物	米飯 鱈のネギソースかけ 卯の花・小松菜わさびサラダ	米飯 スペイン風オムレツ 五目煮豆・春菊ごま和え・果物
土	米飯・ふりかけ 牛乳・だし巻き卵 味噌汁	米飯・青椒牛肉絲・大根旨煮 キャベツりんごサラダ・果物	米飯・豚肉の塩麹蒸し・金時煮豆 白菜和え物

カリフラワーには、抗酸化作用や免疫力向上などが期待できるビタミンC、疲労回復に関係のあるビタミンB1、肌や粘膜を正常に保つ働きがあるビタミンB2など色々な種類のビタミンが含まれています。

朝食は、脳を活性化させることで身体を目覚めさす役割や睡眠中に低下した体温を高める効果があります。朝食はきちんと摂りましょう。

白浜はまゆう病院診療担当表

電話 **43-7880**(受付) **43-6200**(代表)

診療科			月	火	水	木	金	土
内科	内科1(初診)	午前	辻本 登志英	加藤 寛正	竹井 陽	栩野 祐一	中西 一郎	高村 竜一郎
		午後						
	内科2(再診)	午前	竹井 陽	伊藤 揚荘		松尾 晃次	辻本 登志英	
		午後			松尾 晃次	岡 宏保		
	内科3(再診)	午前		辻本 登志英	中村 信男		加藤 寛正	
		午後	中村信(第2・4)	渡辺(第1)	中村 信男	山﨑 幸茂(診察は内科1使用)	加藤 寛正	
	内科4(再診)	午前		松本 潤	栩野 祐一	谷口 友志	堀 善和	
		午後	松本 潤	木下 正博	山下 泰伸	竹井 陽		
	内科5(再診)	午前			谷口 友志	伊藤 揚荘		
		午後	國部(禁煙外来)		谷口 友志	松本 潤	谷口 友志	
外科／消化器外科		午前	三好 隆行(手術時休診)	荒居 琢磨		加藤 俊治	三好 隆行(手術時休診)	当番医
		午後			加藤 俊治(予約15:00～)			
整形外科1(予約)		午前	永田 浩之		小池 達也		岩切 健太郎	
		午後				本吉 俊貴		
整形外科2		午前	本吉 俊貴		永田 浩之	本吉 俊貴	永田 浩之	
リウマチ専門外来(予約)		午前		小池 達也		小池 達也		
装具外来		午前		装具外来(村井)		装具外来(村井)		
小児科		午前	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋
		午後	古久保 和洋	古久保 和洋		古久保 和洋	古久保 和洋	
婦人科		午前	國部 久也	國部 久也	國部 久也			
		午後	國部 久也	國部 久也	國部 久也	國部 久也	國部 久也	
乳腺外科		午前	粉川 庸三	粉川 庸三		粉川(予約)	粉川(予約外10:30まで)	
脳神経内科(予約)		午前	中西 一郎	中西 一郎				
		午後		石口 宏		小口 健		
泌尿器科		午前	木村 泰典	木村 泰典	川嶋 秀紀		木村 泰典	当番医
		午後	川嶋 秀紀		木村 泰典			
泌尿器科(専門外来)		午後		川嶋 秀紀(泌尿器癌相談外来)			川嶋 秀紀(神経因性膀胱女性泌尿器科)	
皮膚科		午前						県立医大
		午後	県立医大					
眼科		午後			田中 公子		井村 良子	
耳鼻咽喉科(予約)		午後				県立医大		
脳神経外科		午前				尾崎 充宣		
		午後				中北(予約)		
循環器外来(予約)		午前			中村 信男			
		午後	中村信(第2・4)	渡辺(第1)	中村 信男	岡 宏保		
呼吸器外来(予約)		午前				松尾 晃次		
		午後			松尾 晃次			
消化器専門外来		午前		加藤 寛正	谷口 友志	谷口 友志	加藤 寛正	
		午後			谷口／山下		谷口／加藤	
血液内科外来		午前					堀 善和	
循環器・高血圧専門外来(予約)		午前						担当医(月２回)
膠原病・糖尿病専門外来(予約)		午前		伊藤 揚荘		伊藤 揚荘		
リハビリテーション専門外来(予約)		午後				村井 昂太		
通院リハビリテーション外来		午前	谷口 友志	村井 昂太	担当医	村井 昂太	村井 昂太	
		午後	國部 久也	栩野 祐一	谷口 友志	國部 久也	砂子／松尾	

※火曜日午後　内科3診/循環器外来・・・第1(渡辺)　※水・金曜日午後　眼科・・・予約外は先着5名までとさせていただいております。　2022.12.1～
※月・火曜日午前　脳神経内科 中西一郎(予約不要)　※診療担当医が変更になることがございます。ご了承下さい。

	受付時間	診療時間
午前(月～土)	8:30～11:30	9:00～12:00
午後(月～金)	13:30～16:30	14:00～17:00
循環器外来 (水)	(予約制)	9:00～11:30 14:00～16:30
循環器外来(火)	(予約制)	13:30～15:30
皮膚科(月)	13:00～15:15	13:00～15:30
眼科(水)	13:30～15:30	14:00～16:30
耳鼻咽喉科(木)	(予約制)	14:30～17:00
リハビリテーション専門外来(木)	(予約制)	14:00～17:00
循環器・高血圧専門外来(土)	(予約制)	9:00～12:00

●休診　土曜日午後・日祝

※診療時間外(夜間・休日)に具合が悪くなったときは、日時に関係なく受付しますので、白浜はまゆう病院へ電話でご連絡ください。

公益財団法人白浜医療福祉財団

白浜はまゆう病院　●理事長　井潤　誠　●院　長　辻本　登志英

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地
TEL.0739(43)6200　FAX.0739(43)7891　【E-mail】info@hamayu-hp.or.jp　【URL】http://www.hamayu-hp.or.jp/

■西富田クリニック	〒649-2334 和歌山県西牟婁郡白浜町才野1番地	TEL.0739(45)3600	FAX.0739(45)3678
■鮎川診療所	〒646-1101 和歌山県田辺市鮎川583番地の3	TEL.0739(48)0031	FAX.0739(48)1005
■日置診療所	〒649-2511 和歌山県西牟婁郡白浜町日置206番地の1	TEL.0739(52)2002	FAX.0739(52)4192
■三舞診療所	〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居3番地	TEL.0739(53)0001	FAX.0739(53)0001
■川添診療所	〒646-0301 和歌山県西牟婁郡白浜町市鹿野1103番地	TEL.0739(54)0037	FAX.0739(54)0037
■訪問看護ステーションたんぽぽ	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地 白浜医療・保健・福祉総合センター1F	TEL.0739(43)5226	FAX.0739(43)0682
■通所リハビリテーションセンター	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地 白浜医療・保健・福祉総合センター1F	TEL.0739(43)8190	FAX.0739(43)8189

◇2022年12月発行　編集・発行／公益財団法人白浜医療福祉財団